

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	鎌倉市立岩瀬中学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	映像制作で創る主体的・対話的で深い学び

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1. 活動に至る経緯

本校は、鎌倉市の教育課題指定研究の一年目を迎えており、『「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業づくり』をテーマに研究を進めている。資質・能力の3つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を育成するためには、今までの INPUT 型の授業から OUTPUT 型の授業への転換が求められている。本校としては、総合的な学習の時間などでは OUTPUT の「型」が決まっているという課題があり、教科の授業では INPUT 型の授業が多いという課題があった。

2. 活動・研究の目的（ねらい）

今回の実践では映像表現による OUTPUT を行うことで「知識・技能」が構造化されることを目指した。従来の OUTPUT の型としてはノートにまとめて他の人に見てもらい、模造紙にまとめてポスターセッションで発表するなどをしてきた。一人一台端末が配備され、スライドを使ったプレゼンテーションも増えてきた。しかし、資料のコピー&ペーストも増えてきていて、自分で発表資料を創造する力が足りないという状況であった。自ら発表する資料を映像として作成するというのが OUTPUT の方法の一つとして適していると考え、実践を行った。

3. 活動内容

（1）教職員を対象とした映像制作研修

総合的な学習の時間において、訪問先でインタビュー活動を行った。インタビュー映像の撮り方について生徒たちが授業で学ぶことに先駆けて、教職員が映像制作の基本を学べるような研修を行った。研修講師は Film Education Lab 代表で映画監督の山崎達璽氏に依頼した。



研修では、生徒向けに行う映像授業と同じ流れになるようにプログラムを組んだ。実際の授業では山崎氏に T1 を行ってもらい、本校教職員が T2 ので、スムーズな授業支援が行えるようにした。

(2) 生徒を対象とした映像制作授業

①総合的な学習の時間

総合的な学習の時間では、地域活性化をテーマに探究活動を行っている。今年度も鎌倉の魅力进行调查し、保護者や地域の方々に発表した。

調査活動の中でインタビューを行うために、事前学習としてインタビュー映像の作成を行うワークショップを行った。ワークショップでインタビュー映像の撮り方、編集の仕方について学んだ。インタビュー映像の撮り方については、ピンマイク、三脚などの機材の使い方、撮影道具としての iPad の使い方、インタビュー映像の構図の作り方、インタビューをする前に行う構成の作り方を主に学んだ。インタビュー映像の編集については、撮影後の編集の方法、編集アプリの使い方などを中心に学んだ。



調査活動の中で、鎌倉市内の商店などでインタビューを行った。従来であれば、インタビューをする際には、メモのみの記録であったが、今回は映像で記録を残すことができた。撮影場所によって三脚が置きづらい場所などあったが、操作の基本ができていたので生徒たちが構図などを考えて撮影できていた。

発表に向けての編集作業では、班ごとにホワイトボードアプリを使い、構成を考えたから編集を行うことができた。編集方法を知らないとキャプションやテロップをつけることが主な作業となってしまうため、せっかく撮影した動画を活かすことが難しくなってしまう。編集方法を事前に学んでいるのでインタビューを受けている人の表情や仕草などを効果的に表現することができた。

②理科

中学校1年生の大地の成り立ちと変化の単元で、「災害が起こった1週間後のドキュメンタリー映像を作ろう」というテーマでPBL型の授業を行った。生徒はドキュメンタリー番組をつくる過程の中で、地震が起こる仕組みや火山が発生する仕組みについて学んでいった。それぞれの仕組みがわかったところで、今まで起こった災害の中でどの災害をテーマにして映像制作するかを決め、それを深掘りするようなかたちで学習を進めた。この授業においても構成をしていくことが大事で、見通しをもって映像制作に取り組んでいた。



生徒たちは、災害という被害者がいるような題材であっても面白い映像をつくろうとしてしまいがちだが、実際に起こった災害をテーマに映像制作をしているので、相手への伝わり方を考えるよい機会となった。

4. 子どもたちへの効果（成果・課題）

映像制作は、学習指導要領の中にある【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】【振り返り・改善】という学習プロセスを踏むことができる。生徒たちは自分たちが設定した課題に向けて、調査活動の中で情報を INPUT し、得られた情報、資料を整理・分析し、映像を制作することで OUTPUT することができた。これらの活動の中で協働は不可欠であり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた活動を行うことができた。

今後は総合的な学習の時間、理科の時間だけでなく他の教科でも映像制作を行うような PBL 型の授業が広まるようにしていきたい。